

①

亞細亞局

特外鮮秘第八三七號

昭和七年五月十一日

第一課

昭和七年五月拾日

船舶  
船舶

福岡縣知事

中山佐之助

情報部

内務大臣 鈴木 喜三郎 殿  
外務大臣 芳澤 謙吉 殿

警視廳 神奈川 愛知 大阪  
兵庫 京都 廣島 山口 長崎 各廳府縣長官 殿

在青島邦人、聯盟調查委員誘致運動ニ関スル件

青島航路檢索員が彼地ヨリ齎セル情報ニ依ルハ目下滿洲國視察中ノ聯盟調查委員一行ハ近ク視察ノ一段落ト共ニ聯盟ニ復步スベキ報告書作成ニ着手スル予定ニシテ此ノ間ノ滞在在地ノ決定ニ就キ大連青島北平

戴河ヲ候補地トシ慎重詮衡中ノ由ナルが日支間ノ重大問題ナル干係ヲ考慮シ大連ハ日本勢力下ニヨリ北平戴河ハ中國ノ完全ナル領土下ナルヲ以テ是等ノ地ニ於テ報告書ヲ作成スルハ何レカ、勢力ニ牽制セラレ妥當ナラストレテ目下行惱ミノ事情ニ在ルモノ、如ク此ノ機ニ於テ青島居留邦人等ハ青島が中國ノ領土下ニアリトスルモ日本ト特種關係アルニ鑑ミ青島ヲ是等委員ノ報告書作成地トセシムルハ至極妥當ノコトナリトシ此際何等カノ方法ヨリ之レが誘致運動ヲ具体化セントスル模様ニテ極力目下各種準備中ナリト云フ  
右及申(通)報候也

S 1.1.1.0 - 33 1722 0355

S 1.1.1.0 - 33 1721

0355





(秘)

参同文

昭和七、五、一

五、一、一

上海武官署

陸軍次官宛

支第九六七

本日午前九時發

員(支那側ヲ除ク)ハ官、案内ニ依リ劉河

及嘉定ニ於ケル日本軍、撤退及支那側接收

状態ヲ視察セシカ、劉河ニハ昨夜ヨリ接收

委員到着シ日本守備隊長ト引継解決

シ本朝十名ノ警官太倉ヨリ来リ再滿引継

ヲ終リタルモ嘉定及南翔(電信連絡)ニハ午後

一時ニ至ルモ支那委員ト約束セシ接收代表及

一名ノ警官モ来ラス(南翔ハ橋破壊ノ爲車

不通視察ヲ取止ム)

各國武官モ極度ニ支那側ノ不信ヲ憤慨セ

リ我軍ハ午後一時トラツクニテ守備ヲ撤退

シ協同委員ハ之ヲ確認スルト共ニ劉河

及嘉定ヲ視察シ我軍駐留間、現状ヲ調

査シ今後窃盜又ハ掠奪ニ依ル損害ハ全然支

那側ノ責任ナルヲトテ之等友交國代表ニ確

認セシメタリ十日ハ羅店鎮ノ撤収ヲ視察ス

ル等

北天海、奉、漢口スミ

0369

S 1.1.1.0 - 33 1726

0359

S 1.1.1.0 - 33 1725

寫送先

大臣 次官 電信課長 亞細亞 歐米 通商 條約 情報 文化 人文 文書 會計

分類A. 1.1.1.0.2/-12-2)

昭和7 一一五七〇 暗

哈爾濱 本省

五月十二日後着

亞

芳澤外務大臣

長岡總領事代理

第五〇一號

吉田ヨリ

第一一九號

伊藤ヨリ

往電第一一四號ニ關シ

「ヤング」トモ屢々會談シタルカ

一、滿洲國政府ニ關シ「ヤング」ハ小官カ北平ニ於テ説明シタル處ヲ肯定シ同政府ノ要人カ必スシモ日本政府及軍ノ意ノ儘動カス從テ

滿洲國... 關係一件

外務省

S 1.1.1.0 - 33 1727 0361

其傀儡ニ非サルコトハ承知シタルモ一方長春政府ノ要路ニ日本人カ立チ主要ナル事項ヲ決定シ居ルコトモ亦事實ナリト述ヘ此一見相矛盾スル二事實ニ付テハ(一)長春政府カ完全ニ日本軍ノ支配下ニ在ルハ争ハレサル事實ニシテ日本軍ハ若シ欲スレハ其意思ヲ何時ニテモ強制シ得ル地位ニ立テルヲ以テ日本政府乃至軍ハ今ヤ忽倥ノ際暫ク或程度ニ之ヲ放任シ事態ノ固定ヲ俟チツツアルカ爲ナリト解釋スルカ又ハ(二)長春政府ニ壓迫ヲ加フルコトニ對シテハ日本國內ニ相當強キ反對アルニ依ルト解釋スルノ外無シト述ヘタルニ付小官ハ斯ル複雑ナル事情アレハコソ芳澤大臣モ承認問題ハ日本トシテ輕々シク決定スルヲ得サル旨述ヘラレタルナラント輕ク應答シ置キタリ

外務省

S 1.1.1.0 - 33 1728 0362

ニ滿洲問題ノ解決方法ニ關シ「ヤング」ハ右ハ第一ニ日本ノ要求ヲ  
満足スルモノタルヲ要シ第二ニ支那ノ承認シ得ルモノタルヲ要シ  
第三ニ聯盟規約ノ精神ヲ無視スルモノタル可カラストノ三點ヨリ  
研究セサル可カラストシ其意味ニ於テ先ツ國防經濟及治安ニ關ス  
ル日本人要請ヲ認ムルコト肝要ニシテ第二ニ張學良ノ歸還等ハ問  
題トナラサルハ明瞭ナルモ唯滿洲ニ形式上支那ノ主權乃至ハ宗主  
權ヲ認メ例ヘハ外蒙古ニ關スルカ如キ形式ヲ執ラハ支那政府ハ滿  
足スヘク更ニ日本ハ滿洲問題ニ關聯シ世界ヲ攪亂スルノ意思ニ非  
ス從テ「ケロツグ、バクト」及聯盟規約尊重ノ意思ナルコトヲ明  
瞭ニセラルルコトヲ得ハ天下ノ輿論（少クトモ英米）之ニ満足ス  
ヘキヲ以テ此位ノ處ニテ解決方法ヲ求ムルヨリ外無カルヘシ但シ

外務省

0363

1729

S 1.1.1.0 - 33

目下ノ形勢ニテハ右ノ如キ案ニ賛成ヲ得ルコト至難ナル可シト思  
考スル旨述ヘタリ

「ヤング」ハ過去八ヶ月南京其他ニ於テ支那要人ト接觸シ來リ支那  
要人ノ意嚮ヲ承知セル筈ナリト述ヘ居ル次第モアリ御參考ノ爲電報  
ス  
支、奉天、聯盟ヘ轉電セリ

外務省

0364

1730

S 1.1.1.0 - 33

REEL No. A-0177

0203

アジア歴史資料センター

6

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

文化

人文

人文

會計

會計

寫送先

1.1.1.0.21-12-2

昭和7 一一五七一 暗

哈爾濱 本省 五月十二日後着

亞、條

芳澤外務大臣

長岡總領事代理

第五〇二號 (極秘)

吉田ヨリ

第一二〇號

伊藤ヨリ

調査團ハ來滿以來各地ニ於テ滿洲問題ニ關スル過去及現在ノ説明ヲ  
求メ調査ヲ進メ居レル次第ニシテ今後齊々哈爾濱ヲ經テ奉天ニ歸ル筈  
ナルカ調査團ハ兩度奉天ニ於テ情報ヲ充實選擇スルモノナルハ勿論  
各方面ヨリ聞ク處ニ依レハ滿洲問題ノ解決案ニ關シ本庄司令官等ト

記録簿  
滿洲日支軍街安事變係簿  
後指置  
縣盟及鄂調查

外務省

S 1.1.1.0 - 33 1731 0365 (記)

意見交換ヲ希望シ居ルモノノ如シ

調査團「エキスパート」ノ日支紛争特ニ滿洲問題解決案ニ關スル意  
見ノ大要ニ就テハ既ニ小官ヨリモ電報ノ通ナルカ從來小官ニ對シテ  
モ屢々其意見ヲ尋ネラルルモ右ハ調査委員カ貴大臣ト談話スヘキ根  
本問題ナリトシテ意見ノ開示ヲ差控ヘ來リタル次第ナリ然ルニ奉天  
本庄司令官其他ニ對シ出先官憲トシテノ意見ヲ徵セラルル場合全然  
意見發表ヲ拒絕スルカ又ハ東京ニ於テ貴大臣ノ開示セラルヘキ御意  
見ニ對スル伏線ノ如キ形式ニ於テ何等カ述ヘ置クコト適當ナルヤノ  
問題ハ此ノ際特ニ考究ヲ要スル點ニシテ齊藤博士ヲ通シ右ニ關  
シ御意見指示ヲ仰キ置キタル次第ナルカ調査團モ二十日頃奉天着ノ  
豫定ニ付之ニ先立チ何分ノ御指令ヲ得度シ

外務省

S 1.1.1.0 - 33 1732 0366

REEL No. A-0177

アジア歴史資料センター

寫送先

會文人情條通歐亞  
計書事化報約商米細亞

次大臣

電信課長

(分類 A.1.1.42-12-2.)

昭和7 一一五七九 暗 哈爾賓 十二日後發 亞、條  
 本 省 五月十二日後着

芳澤外務大臣 長岡總領事代理  
 第五〇四號

吉田ヨリ

第一二一號

十一日鮑市長ハ委員トノ會見ニ於テ主トシテ同人ノ經歷ヲ述ヘ舊奉  
 天政權ノ同人ニ對スル壓迫殊ニ法ニ基カスシテ同人カ逮捕セラレタ  
 ルコト及昨年事變後地方政權ニ依リ釋放セラレ次テ特別區行政廳長  
 張景惠ニ依リ哈爾賓市長ニ任セラレタルコト等ヲ述ヘタルカ特新  
 國家問題ニ關シ言及スルコト無カリキ(委細郵報)

外務省

S 1.1.1.0 - 33 1734

0368

尙小官ハ奉天ニ於テ調査團ニ對スル應答方準備ノ爲杉下同伴十四日  
 頃當地出發同地ニ向ヒ度希望ナルニ付右御許可ヲ請フ  
 奉天へ轉電セリ

外務省

S 1.1.1.0 - 33

1733

0367

記録件名



寫送先

電信課長  
大臣  
次官  
亞細亞  
歐米  
通商  
條約  
情報  
文化  
人事  
文書  
會計

(分類A.1.1.0.21-12-2)

昭和7 一一五八〇 暗 本 哈爾濱 五月十二日後着 亞

芳澤外務大臣 長岡總領事代理

第五〇五號

吉田ヨリ

第一二二號

十二日委員ノ行動左ノ通り

長岡總領事代理及東鐵督辦李紹庚トノ會見

尙十三日ハ午前小松原特務機關長トノ會見アル筈

支、北平、奉天、吉林、長春、齊々哈爾へ轉電セリ

外務省

S 1.1.1.0 - 33

1736

0370

79

23

支、北平、奉天、長春、聯盟へ轉電セリ

外務省

S 1.1.1.0 - 33

1735

0369

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐采

通商

條約

情報

人文

人文

文書

會計

寫送先

分類 A. 1. 1. 0. 2-12-2)

昭和7 一一五七八 暗

哈爾賓 本省

五月十二日後着

亞

芳澤外務大臣

長岡總領事代理

第五〇六號

吉田ヨリ

第一二三號

十二日長岡ハ委員ノ質問ニ對シ昨年九月二十一日及二十五日兩度ノ爆彈事件等當地方ノ不安ノ狀況反吉林政府ノ樹立吉林軍ト反吉林軍トノ戰爭居留民現地保護ノ爲メ出兵要求ヲ爲シタルコト等九月十九日以後ノ經過ヲ説明シタルカ委員ヨリ前記爆彈ノ種類爆發ノ狀況支那側トノ交渉ノ有無犯人逮捕ノ有無等相當立テ入りタル質問アリ之

外務省

S 1.1.1.0 - 33

1737

0371

ニ對シ長岡ハ右ハ着任以前ノ出來事ナルヲ以テ詳細ハ大橋ニ聽カレ度シト應答シタリ次ニ二月末反吉林軍東支鐵道東部線方面ニ橫行スルニ至リタル爲同地方ノ内鮮人哈市ニ引揚ケ目下總領事館ニ於テ之カ救護中ナルカ今日ノ事態ヲ以テシテハ尙當地方ニ於ケル生命財産ノ安全ノ確保アリト云フヲ得サルヲ以テ之等避難民ヲ原地ニ歸還セシムルコト困難ナリト説明シタリ

支、北平、奉天、長春、齊々哈爾、聯盟へ轉電セリ

外務省

S 1.1.1.0 - 33

1738

0372



極大

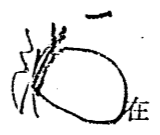
電信課

73

機密第三三〇號

昭和七年五月十二日

外務大臣 芳澤謙吉 殿

 在

奉天  
總領事代理 森島守



亞細亞局

昭和七年五月拾七日

0375

在奉天日本總領事館

S 1.1.1.0-33

1741

REEL No. A-0177

0309

アジア歴史資料センター

大正九年長春の電報 北平電報局の電報 奉天電報局の電報	H. V. von Kotze ナツ 四月二十七日当地発電ノ本件電報 寫一部送附ス 送電者、聯盟一行	送附ニ関スル件	在北平 Phenette 花暗号電報寫
-----------------------------------	--	---------	---------------------

外務省

S 1.1.1.C - 33

1742

0376

REEL No. A-0177

0210

アジア歴史資料センター

電信局

Interoffice

S Moukdenjap 705701 44/42w 27 7.50s cfo sdn etat

Phonette Peiping

casokfopci	awnaiorehi	hqahldisuk	dfeosenhot	scynlaffag
ytwnasytat	ewonegosry	twnatlahdu	bfymonyatz	uanemrytes
eossessaho	tysnollmac	dfenefiysa	fonopotput	pehsnhymns
uhxeyffotm	ebikoddafy	meowetnsyt	oujpetoffm	ryteselahb
yppetodoha	omrahmaccu	tymonegynr	mrytesepet	ewonayatsex
ehofmrytes	eohhesnepl	ahnhiytwmo	ffatpefewo	nyatcecebeh
sngaohhesn	sgeheeiegy	ntessepbie	pgohprutne	halynehto
nyatoftegs	sehxyteutz	uaneodhyfn	getnisexet	nrtaywrn

S 1.1.1.0 - 33

1743

0377

REEL No. A-0177

アジア歴史資料センター

Cypher.

From League Missioner at Mukden.

To Phonette at Peiping.

April 27th 7.50 p.m. 1932.

Please transmit following to Sino Legate  
Washington for publication "Chinese assessor and  
staff completely isolated and under strict  
surveillance by Japanese police agents in Mukden.  
All Chinese forbidden approach or communicate with  
Chinese delegation. Several Chinese arrested for  
trying call on delegation members, two arrests  
were eyewitnessed by Edward Hunter of International  
News Service" April 27th.

League Missioner.

外  
務  
省

S 1.1.1.0-33

1744

0378

REEL No. A-0177

0212

アジア歴史資料センター

平

電信課長

大臣

次官

⑤

亞細亞 歐米 通商 條約 情報 文化 人事 會計

寫送先

(分類 A. 1.1.0.21-12-2)

昭和7 一一六三〇 暗

奉天 十三日後發  
本省 五月十三日後着

亞

芳澤外務大臣

森島總領事代理

第七七九號

齊々哈爾發本官宛電報

第二〇號

安達滿溝附近ニハ李海青ノ率ユル大部隊ノ馬賊出沒シ其間共產黨員  
策動ノ虞モアルニ付哈爾發昂々溪間モ装甲車ヲシテ聯盟一行座乗列  
車ノ先驅ヲ爲サシムルコト然ルヘキヤニ當地軍側ト打合ヲ了シ既ニ  
軍側ヨリ關東軍ニ對シ手配濟ナルカ貴官ヨリモ爲念關東軍側ヘ然ル  
ヘク御口添ヘサル様致シタシ

外務省

S 1.1.1.0 - 33

1745

0379 ⑤

哈爾發、長春へ轉電セリ  
大臣へ轉電アリタシ

外務省

S 1.1.1.0 - 33

1746

0380

REEL No. A-0177

0213

アジア歴史資料センター



高

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

文化

人文

文書

會計

寫送先

(分類 1.1.0.21-2-2.)

昭和7 一一六二三 暗

奉天 本省

五月十三日後着

亞、條

芳澤外務大臣

森島總領事代理

第七八二號 (至急)

九日吉田參與員カ長春ヨリ直接本省宛送付ノ聯盟調査員ヨリ本官宛

提出ノ質問要領書中左記諸點ニ付至急御回電ヲ請フ

(一) 質問要領書一ノ(二) 回答ノ際昨年大倉組ト學良政府トノ航空契約交

渉ヲモ實例ニ援用スルコト有利ト思考スル處右ノ可否

(二) 同四ノ(四) 間島協約ニ關シテハ我ニ於テ支那側ノ領土權ヲ承認シタ

ルニ對シ幾多ノ對償ヲ得居ル處本件朝鮮人ノ土地所有權ハ右ノ一

ニシテ間島協約第五條ハ右土地所有權ノ存在ヲ前提トシタルモノ

外務省

S 1.1.1.0 - 33

1747

0381

ナリト答辯シ差支ナキヤ

(三) 同五ノ(一) 及(二) 南滿及東部内蒙古ノ意義

(四) 同七ノ(一) ニ對スル本省ノ解釋

(五) 同九ノ(一) ノ(2) ニ付共同調査報告ヲ委員ニ提出シ差支ナキヤ

尙三ノ(四) ニ關シ在滿各館ヨリ毎年本省ニ提出ノ商租調査報告ヲ一括

提出スルコト最良ト思考スルニ付右取纏メ至急御送付相成度シ

外務省

S 1.1.1.0 - 33

1748

0382

隨着附言

寫

平考

滿洲口... 關係

滿洲口... 關係

關係

關係

ニツ

類 A.1.1.0.21-12-2

昭和7 一一六四三 暗 奉天 五月十三日後發

本省外務大臣 森島總領事代理

第七八三號

米國總領事館員十二日館員ヲ來訪シ北方ニ向ケ多數ノ軍隊輸送セラ  
レツツアリ商人ノ貨物ハ發送ヲ中止セラレ居ル趣聞込ミタルカ正確  
ナル報告ヲ爲シタキニ付差支ナキ限り情報ヲ得度シト申出タリ依テ  
本官軍司令官ト打合セノ上館員ヲシテ内密ノ含ミトシテ米國側ニ左  
ノ通答ヘシメ置キタリ  
最近一兵團(數ヲ明言セス)ノ兵力北上セルカ右ハ最近匪賊三四萬  
依蘭方正ヲ中心トシテ東支東部線沿線ノ治安ヲ擾亂シ居リ既ニ數次

森島總領事代理  
五月十三日後發

外務省

7.4 S 1.1.1.0 - 33 1749 0383

列車顛覆等ノ事件アリタル處聯盟調查委員北滿旅行中絕對安全ヲ期  
スル爲兵ヲ動カシテモ之ヲ保護スヘキ旨司令官ヨリ委員ニ約束セル  
經緯アリタルト高粱繁茂期ニモナレハ匪賊討伐全然不可能トナリ地  
方民ノ農耕全然不能ニ歸スヘキニ依リ此ノ際早目ニ匪賊討伐ヲ行フ  
爲派兵セルモノナリ尤モ右目的ヲ達スレハ出來ルタケ速ニ右部隊ヲ  
撤收スル考ヘナルカ「ソ」聯邦側ニ於テモ萬々誤解ナキコトト思考  
スルモ軍トシテモ對「ソ」關係ハ極メテ慎重ニ考量シ派遣部隊ハ國  
境附近及奧地ニハ深入セシメサル方針ナリ  
支、北平、哈爾濱、米、露へ轉電セリ

外務省

7.4 S 1.1.1.0 - 33 1750 0384

子

電信課長

大臣

次官

亞細亞 歐米 通商 條約 情報 文化 人事 文書 會計

寫送先

記録件  
滿洲日支衝突關係一件  
善後措置  
併送支那國境守備隊

昭和7 一一六一〇 暗

哈爾濱 本省

十三日前發 五月十三日後着

亞

芳澤外務大臣

長岡總領事代理

第五〇九號

齊々哈爾發本官宛電報

第七五號

過日當地軍側ハ聯盟一行ノ昂々溪ニ於ケル列車乗換ニ乘シ我方ノ行  
動ヲ暴露セル密書ヲ密ニ一行ニ手交スル爲右密書ヲ所持シ入齊セル  
馬占山ノ使者二名ヲ逮捕セル事實アル處一行座乗ノ列車ヲ齊克線ノ  
中東驛ニ引込ムニハ東支昂々溪驛附近ヨリ列車ヲ東支ノ引込線ニ入  
レ所定地點(中東驛)迄逆行ノ上停車セシムル段取トナリ居ルカ此

(分類A.1.1.0.21-12-2.)

外務省

S 1.1.1.0 - 33

1751

0385

ノ間列車ノ徐行ニ乘シ上記ノ如キ反動分子列車内ニ入込ム事ナキヲ  
保シ難キニ依リ同乗ノ邦人ヲシテ列車カ所定地點ニ停車スル迄列車  
ノ窓ヲ一切開カシメサル様御手配相煩度シ  
大臣、奉天、長春へ轉電アリ度シ

外務省

S 1.1.1.0 - 33

1752

0385

電信課長

大臣

次官

亞細亞 歐米 通商 條約 情報 文化 人事 文書 會計

寫送先

分類A.1.1.0.2/12-2

昭和7 一一六〇九 暗 哈爾濱 五月十三日後着 亞、條

芳澤外務大臣 長岡總領事代理

第五一〇號

本官發吉林宛電報

第二二號

先般調査委員貴地視察ノ際鮮人陳情者ヨリ從來支那官憲カ各種口實ヲ設ケテ無辜ノ鮮人ヲ投獄シタル數極メテ多數ナルカ事變後日本軍ニ依リ釋放セラレタル者ハ吉林監獄ノミニテモ約二、三百名ニ達シタリト申立テタル處右ハ支那側ノ鮮人壓迫狀況ヲ立證スル有力ナル資料ノミナラス委員側ニ於テモ是ヲ重視シ關係資料入手方希望シ居

外務省

S 1.1.1.0 - 33 1753

0387

記録簿名 長岡總領事代理 亞、條

レルニ付テハ貴地監獄入獄者數、釋放ノ事實、投獄ノ理由及出來得レハ其代表的人物ノ聽取書並ニ右ニ關スル支那側トノ往復公文書奉天宛御送付相煩シ度シ  
大臣、奉天、長春へ轉電セリ

外務省

S 1.1.1.0 - 33 1754

0388

書

電信課長

大臣

次官

亞細亞 歐米 通商 條約 情報 文化 人事 文書 會計

寫送先

分類 A.1.1.0.2/12-2.1

記録名

昭和7 一一六七六 暗

本 哈爾濱 省

五月十四日後着

亞、條

芳澤外務大臣

長岡總領事代理

第五一二號

吉田ヨリ

第一二六號

十二日東支鐵道督辦代理李紹庚ハ委員トノ會見ニ於テ東支鐵道露支  
共管ノ意義、理事會ノ組織及權限、利益金處分問題等ヲ説明シタル  
後露支及奉露兩協定ニ於テ支那側ニ屬スル權益ハ總テ滿洲國ニ於テ  
之ヲ引繼ク可キ事、鐵道警備ハ護路軍及巡警ニ於テ之ニ當リ居リ前  
者ハ滿洲國政府、後者ハ鐵道ニ屬シ居ル事等ヲ説明シ最後ニ最近ノ

外務省

S 1.1.1.0 - 33

1755

0389

東支<sup>後</sup>繼業員各種問題ニ關聯シ質疑應答アリタリ  
露、支、北平、奉天、長春、齊々哈爾、聯盟ニ轉電セリ

外務省

S 1.1.1.0 - 33

1756

0390

#

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人文

人文

文書

會計

寫送先

(分類 1.1.1.0.2-1/2-2)

昭和7 一一六二八 暗

長春 本省

五月十三日後發

亞、條

芳澤外務大臣

田代領事

第二三七號

齊々哈爾發本官宛電報

第九號

大臣へ轉電アリ度シ

第七三號

長春發閣下宛往電第六八號ニ關シ

一本庄司令官ハ調査委員ニ對シ地方治安維持會ノ成立ヲ見タルハ奉天ノミナリト答ヘタル由ナルモ(吉田大使發閣下宛往電第一八六

記録名

外務省

S 1.1.1.0 - 33

1757

0391

號参照) 當省ニ於テハ「地域ヲ省城地方ニ限リ軍事、政治ニ關與セス地方ノ安全及細民ノ救濟ヲ目的トスル」黒龍江省城地方臨時治安維持會客年十一月二十四日組織セラレ本年一月七日張景惠ノ省長就任ト同時ニ解散セリ同維持會ハ全然地方民力軍ノ承認ヲ得テ任意ニ設立セルモノニ係リ事實ニ於テハ何等活動スル事無クシテ終リタリ  
又委員八十三名中本邦人三名加ハリタルモ右ハ單ニ名ヲ連ネタルニ止マレリ從テ聯盟發表報告記載ノ如ク日本側ノ協力ト云フカ如キ事實無シ  
ニ當省ニハ日本軍ノ努力ニ依リ新募又ハ改變セラレタル滿洲軍無シ  
長春ヨリ奉天、吉林、支、北平へ轉電アリ度シ

外務省

S 1.1.1.0 - 33

1758

0392

寫送先

大臣 次官 電信課長 亞細亞 歐米 通商 條約 情報 文化 人事 文書 會計

(分類 A.1.1.0.2-12-2)

昭和7 一一六九二 暗 哈爾濱 十四日後發 亞、條  
 本 省 五月十四日後着

芳澤外務大臣 長岡總領事代理  
 第五一三號

吉田ヨリ

第一二七號

十三日小松原特務機關長ハ委員ニ對シ

(一)北滿ニ於ケル反吉林軍及匪賊ノ狀況ヲ詳細説明シタルカ就中支那  
 正規兵ト匪賊トノ區別困難ナルコト黑龍江省内ニ於テハ民間ニ約  
 四十萬ノ小銃アリ支那ニ於テハ銃器ヲ有スルモノハ何時ニテモ匪  
 賊トナリ又正規兵トナリ得ル事情モアリ旁北滿ニ於ケル匪賊ノ徹

S 1.1.1.0 - 33 1760 0394

外務省

哈爾濱ヨリ吉田大使へ轉報アリ度シ  
 哈爾濱、長春へ轉電セリ

外務省

S 1.1.1.0 - 33 1759 0393

底的掃蕩ハ甚タ困難ナルヘシト説キ

(一)日本ハ目下北滿ニ於テ二ヶ師團約一萬未滿ノ兵力ヲ有シ居レルニ對シ露國ハ大戰前平時ニ於テ東支鐵道警備ノ爲ニ萬五千ノ兵力ヲ用ヒ又東北官憲ハ專變前六ヶ旅團三萬有餘ノ警備兵ヲ用ヒ居リタル事實ニ鑑ミ前記我方兵力ハ甚タ不充分ト思考スル旨述ヘ

(二)北滿ニ於ケル共產運動ニ關シ最近ニ於ケル各種「テロル」事件ハ哈爾濱停車場ニ於ケル爆彈攜帶犯人逮捕事件、松花江鐵橋爆破裝置事件、列車顛覆事件等ヲ説明シタル後前記爆彈攜帶犯人(赤系露人)ノ供述ニ依レハ

(1)同人ハ特別任務班ノ一員トシテ昨年一月他ノ「コムソモール」員二十名ト共ニ哈府ニ派遣セラレ同地極東海軍根據地ニ於テ赤

外務省

8 1.1.1.0 - 33 1761

0395

軍指導ノ下ニ主トシテ爆破ノ練習ヲ爲シ昨年十一月歸還シタルコト

(2)哈爾濱ニハ別ニ戰鬥義勇團(團員二百五十名ヲ有ス)ナル特別機關アリ共產黨北滿委員會ニ屬シ「テロル」ノ實行、支鮮人共產黨員トノ聯絡等ニ任シ居レルコト

(3)昨年十一月以來右特別任務班ハ戰鬥義勇團及「モツブル」ト聯絡シ「テロル」ヲ開始シタルコト

等ノ事實判明シタルカ前記「テロル」事件モ白系露人又ハ支那官憲ノ爲シタルモノニハアラスシテ露國共產黨ノ所業ナルコトハ疑フノ餘地ナク右ハ日本軍ノ北滿進出ニ脅威ヲ感シタル露國カ一方西比利亞ノ増兵、東支運轉材料ノ露領搬入、物資買込等ニ依リ之

外務省

8 1.1.1.0 - 33 1762

0396



寫送先

會文人文情條通歐亞  
計書事化報約商米細亞

次大臣  
官

電信課長

(分類A.1.1.0.2/2-2.)

昭和7 一一七一七 暗 哈爾濱 十四日後發 亞  
 本 省 五月十四日後着

芳澤外務大臣  
 第五一五號  
 吉田ヨリ  
 第一三〇號(別電)

一、滿洲ニ於ケル地方行政機關ニ關スル説明中 *in the course of the ev-*  
*ents*以下 *as the Manchukuo Government* 迄ヲ次ノ趣旨ニ改ムルコト

本調査ノ目的タル事件ノ進行中地方行政機關ハ一九三一年九月下  
 旬ヨリ逐次獨立シ又奉天市ニ在リテハ同地ニ「地方維持會」ナル  
 モノ市民有力者ニ依リ創立セラレ次テ治安ノ恢復ニ伴ヒ同年十二

外務省

S 1.1.1.0 - 33 1764

0393

記録名

滿洲日支衝突事變關係一件  
 長岡總領事代理

外務省

ニ備フル一方前記「テロル」ニ依リ日本ノ軍事行動ヲ妨碍セシト  
 スルニ出テタルモノト思考スル旨述ヘタリ  
 露、支、北平、奉天、長春、齊々哈爾濱へ轉電セリ

S 1.1.1.0 - 33 1763

0397

於テハ事變後日本官憲ノ協力ヲ得テ市政公署ニ於テ新ニ編成セリ

S 1.1.1.0 - 33

1766

0400

月十五日市政公署ノ成立ト共ニ解散セリ  
 前記各地方ニ於ケル獨立セル地方政權カ一九三二年三月九日「滿洲國」ノ繼承スル處トナリタリ  
 三滿洲國軍ニ於ケル軍事顧問ニ付テハ *this force has been* 以下  
*number is increasing* 迄ヲ次ノ趣旨ニ改ムルコト  
 滿洲國軍ハ日本人顧問ノ補佐ニ依リ漸次改編發達シタルモノニシテ目下二十四五名ノ日本退役並ニ現役將校之カ軍事顧問トシテ勤務シ居レリ  
 三警察隊ニ付テハ *this police force* 以下 *Japanese officials* ヲ次ノ趣旨ニ改ムルコト  
 警察隊ノ大部分ハ九月十九日以前ヨリ存セシモノナリ但シ奉天市ニ

S 1.1.1.0 - 33

1765

0399

高

電信課長

大臣

次官

亞細亞 歐米 通商 條約 情報 文化 人事 文書 會計

寫送先

(分類 A. 1.1.0. 21-19-2.)

昭和7 一一七一二 暗

哈爾濱 本省

十四日後發 五月十四日後着

亞、條

芳澤外務大臣

長岡總領事代理

第五一六號

吉田ヨリ

第一二八號

伊藤ヨリ

小官奉天ニ向ケ當地ヲ出發スルニ先立チ「ハース」ト會談シタルカ  
其ノ際「ハ」ハ

一、委員ハ大連ヨリ一度北平ニ赴キ書類ノ整理ヲ爲シタル上東京ニ赴  
ク管ナリト述ヘタルニ付小官ハ書類ノ整理ト共ニ委員ハ報告作成

外務省

S 1.1.1.0 - 33

1767

0401

ニ關シ意見ノ交換ヲ爲スモノト思ハルル處右報告ニ付テハ問題ノ  
過去及現在ニ關スル部分ニ關シテハ意見ノ一致容易ナランモ將來  
ニ關スル部分ニ付テハ困難アルヘシ自分ノ觀ル所ニ依レハ右ハ東  
京ニ於テ日本政府ト意見交換ノ上決定スヘキモノニシテ從テ北平  
ニ於テハ單ニ委員間ニ意見ノ交換ヲ爲シ置クニ止ムルヲ至當ト思  
考ス而シテ他面右委員間ノ意見交換モ無クシテ東京ニ來ルカ如キ  
ハ曩ニ東京ニ於ケル芳澤大臣トノ會談以上ニ效無カルヘシト述ヘ  
タルニ「ハ」ハ之ニ同意ヲ表シタリ尙「ハ」ハ委員ハ「チーム、  
ワーク」ニ狎レ居ラサル人々ナルハ御承知ノ通りニシテ意見ノ嚮  
導ニ困難アル旨漏ラシ居タリ

ニ日本政府トノ意見交換ニ關シ「ハ」ハ日本ノ政情ハ頗ル複雑ニシ

外務省

S 1.1.1.0 - 33

1768

0402

寫送先

會文人情條通歐亞  
計書事化報約商米細亞

次官  
大臣

電信課長

分類A. 1. 1. 0. 2 / - 12-2)

昭和7 一一七四四 略 哈爾濱 十五日午前發 亞、條  
 本 省 五月十五日前着

芳澤外務大臣  
 第五一七號  
 青田ヨリ

第一三一號

十四日委員ハ當地日本人代表者（商工會議所會頭及居留民會長等）  
 ト會見シタルカ右代表者ヨリ當地ニ於ケル支那側排日運動其他不法  
 行爲ニ付説明スル處アリタリ

委員ハ明日ハ休日トシ十六日（月曜日）午前小松原特務機關長ト第  
 二回ノ會見、午後張景惠トノ會見ヲ爲ス豫定ナリ

記録名

S 1.1.1.0 - 33

1770

0404

外務省

テ果シテ支那問題乃至滿洲問題ニ關スル政策決定シ居ルヤ否ヤ疑  
 ハシト述ヘタルニ付小官ハ滿洲國承認問題カ未決定ナルハ芳澤大  
 臣カ述ヘラレタル通りナルモ對支乃至對滿洲政策ノ根本カ確定シ  
 居ルハ勿論ナリト答ヘ置キタリ

三、小官ハ委員カ一度北平ニ赴ク以上同地ニ於テ南京政府ノ代表者ト  
 モ會談シ得ヘク東京ヨリ重ネテ渡支スル必要ナカルヘキ旨述ヘタ  
 ルニ「ハ」ハ之ヲ肯定シ尙最終報告ハ七月中旬ヨリ作成ニ取掛レ  
 ハ可ナル旨述ヘタリ

支、北平、奉天、聯盟ヘ轉電セリ

S 1.1.1.0 - 33

1769

0403

外務省

寫送先

會文人文情條通歐亞  
計書事化報約商米細亞

次大臣  
官

電信課長

(分類 A. 1. 1. 0. 2/1-2-2)

昭和7 一一七四三 略 哈爾賓 十五日 前發 亞、條  
 本 省 五月十五日 前着

芳澤外務大臣  
 第五一八號  
 吉田ヨリ  
 第一三二號

十四日「アンズエリノ」及「ヤング」ハ委員ニ代ツテ當地鮮人避難  
 民收容所ニケ所ヲ視察シ（一ヶ所ハ一千二百六十名、他ハ五百名ヲ  
 收容ス）民會長其他ヨリ支那ノ鮮人壓迫狀況、日本側ノ避難民救濟  
 措置等ニ關シ詳細聴取シタリ

支、北平、奉天、齊齊哈爾、聯盟へ轉電セリ

記録係

外務省

S 1.1.1.0 - 33

1772

0406

尙同日「ハイヤム」ト専門家ハ東支鐵道代表者ヨリ鐵道事項ニ付意  
 見ヲ聴取スル筈

外務省

S 1.1.1.0 - 33

1771

0405

寫送先

會文人文情條通歐亞  
計書事化報約商米細亞

大臣  
次官

電信課長

昭和7 一一八〇三 暗 奉天 十六日後發 亞、條  
 本官發哈爾賓宛電報 五月十六日後着  
 第七九三號 森島總領事代理  
 第七八號  
 大臣宛貴電第五一五號ニ關シ  
 吉田參與員へ左ノ通  
 (-)奉天ニ於ケル地方維持委員會ハ九月二十五日成立シ十一月七日ニ  
 至リ便宜政權ノ代行ヲ聲明シタルカ十二月十五日ニ至リ奉天全市  
 民代表ノ推薦ニ依リ臧式毅正式ニ省長ニ就任シタルヲ以テ翌十六

外務省

S 1.1.1.0 - 33

1774

0408

記

寫送先

會文人文情條通歐亞  
計書事化報約商米細亞

大臣  
次官

電信課長

分類A-1.1.0.21-12-2

昭和7 一一七七二 平 哈爾賓 十五日後發 人  
 本 省 五月十六日前着  
 芳澤外務大臣 長岡總領事代理  
 第五一九號  
 吉田ヨリ  
 第一三三號  
 伊藤杉下十五日朝當地發奉天へ向へリ

外務省

S 1.1.1.0 - 33

1773

0407

記

記録付  
 滿洲リ支那街ニテ  
 善後措置ヲ行ハシメ  
 聯合支那國定委員ヲ任

日解散シタルモノニシテ右解散ハ市政公署ノ成立ト全然關係ナク  
市政公署ハ九月二十日土肥原大佐ヲ市長トシテ臨時ニ執務シ來レ  
ルモ其後秩序恢復ニ伴ヒ十月二十日趙欣伯ニ事務ヲ引繼キタル次  
第ナリ委細ハ本年二月當館調査事變後ニ於ケル奉天省内行政及施  
設關係事項第四及第五項ニ付御承知アリタシ

(二)警察ニ付テハ奉天ニ於テハ事變後治安維持ノ爲我憲兵隊ニ於テ直  
接自衛警察隊三十名ヲ募集シ其後間モナク別ニ我憲兵隊ニ於テ地  
方維持委員會ヲシテ保安隊六百ヲ又商工會ヲシテ商團一千ヲ編成  
セシメタルカ十二月ニ至リ奉天市政公署ノ下ニ警察局ヲ設ケテ商  
團以外ノ自衛警察及保安隊ヲ統一シ更ニ本年三月ニ至リ全部ノ警  
察ヲ省政府ノ直轄ニ移セリ委細ハ前顯當館調査報告第三項及三月

外  
務  
省

S 1.1.1.0 - 33 1775

0409

十九日當館發外務大臣宛往電第四二六號參照アリタシ  
哈爾濱ヨリ齊々哈爾ニ轉電アリタシ  
大臣、長春へ轉電セリ

外  
務  
省

S 1.1.1.0 - 33 1776

0410

14

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

文化

人文

文書

會計

寫送先

昭和7 一一八二一

暗 奉天 本省

五月十六日後着

亞

芳澤外務大臣

森島總領事代理

第七九五號

十五日橋本關東軍參謀長ヨリ電話ヲ以テ在哈爾濱「アース」ハ大橋ニ對シ調査員ノ一部馬占山ト會見ノ爲呼海線ニテ海倫へ赴キ度キ意嚮ナル旨申出アリタル趣ノ處新國家側ニ於テハ右ニ絶對反對ノ意嚮ナル由ナルカ關東軍トシテモ調査委員ヲ新國家ニ背叛シ居ル者ニ面會セシムルカ如キコトハ絶對ニ排除スル建前ナル旨申越セリ  
哈爾濱、長春、齊々哈爾へ轉電セリ

記録簿

外務省

S 1.1.1.0 - 33 1777

0411

15

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

文化

人文

文書

會計

寫送先

昭和7 一一八四九

暗 奉天 本省

五月十六日後着

亞

芳澤外務大臣

森島總領事代理

第七九八號 (極秘)

伊藤ヨリ  
小官出發ニ先立チ「クロードル」將軍ト雜談シタルカ其ノ際「ク」  
將軍ハ  
一、哈爾濱ニ於テ「マツコイ」及「ハース」等馬占山ト會見スルノ必  
要ヲ主張シ自分ハ之ニ反對シタルモ結局右ハ滿洲國トノ問題ナル  
ヲ以テ之ニ諍ル事トナリ「ハース」カ大橋ト交渉ヲ開始セル旨述  
へタルカ右馬占山トノ會見ハ同時ニ反吉林軍將領トノ會見ヲ意味

記録簿  
滿洲中華軍衝突事關關係一件  
森島總領事代理

外務省

S 1.1.1.0 - 35 1778

0412



シ北平ニテ張學良ヨリ吹込マレタルモノナリ  
二尙「ク」將軍ハ「マツコイ」ハ來滿以來益々露ハニ「スチムソ」  
ノ政策ヲ表現シ居レルカ「マ」ハ哈爾濱ニ於テ歐米人ヲ集メ意見  
交換ヲ爲ス外、抗日思想ヲ有スル「プロテスタント」宣教師代表  
者ヨリ意見ヲ提出セシメタリトノ旨ヲ述ヘ次ニ  
三「シユネー」ニ關シ同委員モ亦獨逸政策ノ代表者タル態度ヲ益々  
示シ來レル處同氏ハ來滿以來各地ノ獨逸商人ヨリ其ノ日本商人ヨ  
リノ壓迫ニ關シ多クノ陳情ヲ受ケ滿洲國ノ門戶開放政策ニ付批評  
ヲ爲シ居レル事ヲ漏シタルカ「シユネー」カ長春ニ於テ「マツコ  
イ」ヨリ調査委員ハ一國ノ代表者ニ非サル事ニ付間接窺メラレタ  
ル事アルハ小官モ聞キ及ヒ居レリ

外務省

S 1.1.1.0 - 33

1779

0413

四尙「ク」將軍ハ「リットン」ニ對シテハ非難モアル如ク殊ニ細事  
ヲ穿索スル癖アル爲日本側ノ應答モ之ニ捉ハレ居ルカ如キ感アル  
モ同卿カ「オネスト」ニシテ誠意時局解決ニ苦心シ居ルハ事實ナ  
リト爲シ  
五自分ハ殖民地ニ於ケル二十餘年ノ經驗ニ依リ滿洲ニ於ケル土匪討  
伐ニ關シテハ多少意見アリ本問題カ頗ル厄介ナル事ヲ良ク理解シ  
居レリト述ヘタリ  
右内話ハ「ク」將軍ノ要請モアリ絶對他ニ漏レサル様御配慮アリ度  
シ  
哈爾濱ニ轉電シ吉田大使ニ傳達セシム

外務省

S 1.1.1.0 - 33

1780

0414

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

文化

人文

文書

會計

寫送先

昭和7 一一七七七 暗

哈爾濱  
本省

五月十六日前着

亞、條

芳澤外務大臣

長岡總領事代理

第五二〇號（至急極秘）

吉田ヨリ

第一三四號

十四日委員ハ馬占山（黒河又ハ海倫ニアリ）其他一、二ノ吉林軍ノ主腦ト會見スルコトニ決シ同日「ハース」ヨリ大橋ニ對シ呼蘭方面ノ旅行ニ對シ保護及便宜供與方希望シタルニ對シ大橋ハ馬ハ委員ノ來滿ヲ利用シテ反對運動ヲ爲シ居ル事情モアリ此ノ際委員カ反軍タル馬ニ會見スルコトハ滿洲國ノ治安ニ關係シ且其ノ利益ニ面白カラ

外務省

S 1.1.1.0 - 33

1781

0415

記

サル影響ヲ與フルヲ以テ委員會ノ希望ニ應スル事ハ困難ナリト述ヘ更ニ二十五日午前兩人再ヒ會見シタルカ大橋ヨリ長春政府ニ請訓シタル結果右保護及便宜供與ニハ絶對反對ナル旨回答セリ

右ニ關シ「ハース」ヨリ鹽崎ニ對シ馬ハ後ニ立タサル人物ニシテ面會スルトテモ左程ノ効果ナカル可キモ最後報告作成公平ヲ缺キタリトノ非難壽府ニテ起ル虞アルヲ以テ委員會トシテハ兩方面ノ意見ヲ聽ク事任務遂行上必要ナリト思惟シ居ルモノニシテ前記滿洲國側ノ意嚮ハ了解ニ苦シム處ナリト述ヘタルヲ以テ鹽崎ヨリ滿洲國ノ出現ハ理事會決議以後ノ新事態ニシテ滿洲國側トシテハ理事會ノ決議ニ何等拘束セラル事ナシトノ立場ヲ執リ茲ニ顧維鈞ヲ含ム委員一行ノ視察ニ對シ保護及便宜ヲ供與スルニ至リタルハ右決議ニ基カス滿洲

外務省

S 1.1.1.0 - 33

1782

0416

寫送先

電信課長  
大臣  
次官  
亞細亞  
歐米  
通商  
條約  
情報  
人文  
人文  
會計

國方任意ニ之ヲ與フルモノナリトノ意嚮ヲ有セルモノノ如ク又我方トシテハ滿洲國ノ態度ヲ一々左右スルコト得サル事モ願維鈞問題ノ例ニ徴シ御承知ノ通りナリト答ヘタルカ「ハース」ハ若シ滿洲國側ニ於テ肯ンセス又聊<sup>多</sup>慰ニ於テ飽ク迄馬占山トノ會見ヲ必要トスルニ於テハ結局危險ヲ冒シテ呼蘭ヨリ海倫方面ニ至ルカ或ハ多少ノ時日ヲ犠牲ニシテ「チタ」ヨリ「ブラゴエスチエンスク」ニ廻ルカ何レカヲ採ルノ外ナカル可シト述ヘタル趣ナリ  
支、北平、奉天、長春、齊々哈爾、聯盟ニ轉電シ聯盟ヨリ英米獨佛伊ニ轉電セシム

外務省

S 1.1.1.0-33 1783 0417

昭和7 一一八一 一 暗  
哈爾賓  
本 省  
五月十六日 後發  
亞、條  
長岡總領事代理  
芳澤外務大臣  
第五二一號  
本官發奉天宛電報  
第四四九號  
吉田ヨリ  
委員長ヨリ本使宛別電第四五〇號及第四五一號ヲ送付越シタリ右ハ先般貴地ニ於テ支那側隨員ヲ訪問後逮捕セラレタル郵務局僱員ノコトナルヘキ處從來委員側ニハ支那側ヲ保護スルモ監視セルコトナシト當方ニテ申居リタル手前該逮捕力他ノ犯罪ニ依ルモノニ非サル限

外務省

S 1.1.1.0-33 1784 0413 (記)

シ  
リ委員長へノ説明困難ナル處先方へノ回答振り詳細至急回電アリタ  
別電ト共ニ外務大臣長春へ轉電セリ

同  
七  
三  
三

外  
務  
省

0419

S 1.1.1.0 - 33

1785

REEL No. A-0177

0233

アジア歴史資料センター

電信寫

張守澤

1.1.1.0-21-12-2

昭和7

略

哈爾濱  
本省

五月十六日後着

長岡總領 代理

芳澤外務大臣

第五二二號

本官發奉天宛電報

第四五〇號

(別電)

The enclosed was received by a British Resident in Harbin given to me. I shall be very grateful if you would investigate the matter for me. It appears to refer to the same individual about whom I spoke to you in London who seems to have been arrested again.

名作

滿洲事變  
事後措置

解送文部調查  
所

Handwritten signature

1.1.1.0-33

1786

0420

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人文

人文

會計

會計

寫送先

昭和7 一一八〇九 略

哈爾濱 本省

五月十六日後着

亞、條

芳澤外務大臣

長岡總領事代理

第五二三號

本官發奉天宛電報

第四五一號 (別電)

We learn that K.C. Chang arrested on April 28, is being tortured in such a way that his life is endangered. We are unable to verify the information as we have no access to K.C. and the police refuses to make any statement. His arrest resulted from his having met one ( of ) his friends connected with the Commission of the League

外務省

S 1.1.1.0 - 33 1787

0421

of Nations.

As far as we can ascertain no inelminating evidence has been found and we are morally certain K.C. is perfectly innocent.

Please convey this message to any one connected with the Commission.

外務省

S 1.1.1.0 - 33 1788

0422

手

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

文化

人文

文書

會計

寫送先

分類 A. 1. 1. 0. 21-12-2

昭和7 一一八一四 暗

哈爾濱 本省

五月十六日後着

亞

芳澤外務大臣

長岡總領事代理

第五二四號

吉田ヨリ

第一三五號

往電第一三四號ニ關シ

「マツコイ」ハ本使ニ傳言シ吳レヨトテ十五日「ブロンソン、レ」ニ對シ自分ハ日本ニ對シ友誼的感情ヲ有シ又滿洲問題等ニ關スル日本ノ主張ハ「ストロング」ナリト考ヘ居ル處最近委員ノ間ニハ滿洲國ノ態度ニ不快ノ念ヲ有スルモノ多ク(一)滿洲國ニ反對ノ支那人カ委

記録簿

外務省

S 1.1.1.0 - 33

1789

0423 (記)

員ト會見スル場合即座ニハ滿洲國官憲ノ壓迫ヲ受ケサルヘキモ委員一行出發後如何ナル取扱ヲ受クルヤモ計ラレサルニ付委員側ハ直接之等ト會見スルヲ得ス間接ノ方法ニ依リ彼等ノ意見ヲ聽クノ外無キ狀況ナリ又(二)馬占山問題ニ付テモ同様ナリト語レル趣ナルカ本使ヨリ「レー」ニ對シ何分ニモ日本カ滿洲國ノ態度ヲ思フ様ニ左右スルヲ得サルハ顧維鈞問題ノ例ニ依リテモ明ナルヘシト言ヒタルニ「レー」ハ委員側等ニ於テハ滿洲國ハ日本ノ意ノ儘トナルモノト考ヘ居リ日本カ之ヲ指導シ得サルモノナリトハ何人モ考ヘ居ラサル様子ナリト述ヘタリ  
本使十六日「マ」ト懇談スヘシ  
支、北平、奉天、長春、聯盟へ轉電セリ

外務省

S 1.1.1.0 - 33

1790

0424